

# ふるさと愛からうまれた 語り部ガイドさん

小泉 正敏

聞き手・岡本 花奈 藤住 望美 (石川県立穴水高等学校1年)

ボラ待ち櫓

## 地元を愛するナビゲーター

僕は昭和19年6月6日生まれ72歳の中居っ子です。今は、妻と2人で中居に住んでいます。住吉小学校から住吉中学校、穴水高校卒業後は、すぐ郵便局に就職して、41年間勤務しとってん。ほんで、退職後は中居<sup>いもの</sup>鋳物保存会のメンバーとして活動しとって、2011年から語り部ガイドさんとして活動しとるよ。観光スポットを巡りながら、歴史のことを話をしています。今はふるさと案内人の会長です。特に穴水町に古くから伝わる文化とか祭りのことを説明しています。今やりたいことは、穴水町の海岸線を歩く「潮騒の道」と、2社7ヶ寺を巡る「さとの道」という散策路を活かした歴史や観光場所を案内しながら少しでも多くの人達に、穴水の良いところを知ってもらいたいと思っています。

## ぼくちの過ごした人生

僕の子どもの頃はねえ、相撲とったり、家の裏山でアテの木の葉っぱで小屋作ったりして遊んどってん。山から家に帰る時は、ご飯炊きに必要なかまどに使う杉の木の枝を拾ってきて火をおこしたもんやわ。僕が小さい頃は、お母さん身体が弱かってん。だから、小学校の運動会も来てくれたのはほとんどないげん。やから、12歳下の弟とかの面倒も僕がみとってん。お風呂とかは昔は無かったから、共同風呂連れて行っってん。それに、昔のおむつつちゃ、肌襦袢<sup>はだじゅばん</sup>ちゅう、夏に着る浴衣を切っておむつにしとってんけど、たらいで毎日洗っってんよ。今じゃ考えれんやろ?でも、こんな時代があったってことも忘れてだめねん。僕には6つ離れた妹もおりんけど、全然違うよ。妹の時は、高度経済成長で、学校にでっかい運動場があって、そこの草とかも僕達が刈ったもんやね。そんな人は自分でやらんと運動場使えんかったから。でも、今となったら貴

重な体験できたと思う。

## 中居から日本へ

中居は昔から鋳物で有名やったんよ。鋳物っちゅうがんは、鉄を溶かして型に入れて、造るもんや。例えば、お寺の梵鐘とかね。ああゆうのを鋳物っちゃ言うげん。中居の鋳物っちゃ凄いげん。全国の左官のリーダーや。北海道から九州まで全部中居の鋳物がいっとるんや。昔から中居は鋳物造りが盛んやってん。戦争終わって、日本が復興するために道路とか家とか造るがんにすごい儲かった。でもね、鋳物っちゃ守るのは大変ねん。今は衰退しとりんけど、吹屋<sup>ふきや</sup>っていう鋳物を造った家が昔13軒あって、歴史を守りたいっちゅうことで、平成2年に鋳物保存会を結成してん。それで、平成7年にこの中居鋳物歴史資料館を作ってん。でもこの中居には、今では鋳物を作っている家はなくなってしまったの。中居は若い子が興味持つようなことせんとだめねんけど、なかなかそうもいかんわ。若い子向けの物ちゃ若い子しか分かんやろ。その若い子が居らんからには、どうすることもできんわいね。でも、中居の鋳物の歴史の良さはいろんな人に知ってもらいたいよ。日本を誇れる鋳物やからね。

## 形は時代と共に変化する

僕の考えはね、高度経済成長をきっかけに変わってん。穴水の様子も随分変わったよ。でも、文化的な物って、景気の変動に左右されんげん。人間の心に残る物やから。そういった流れで僕は大切な物を守ろうと思って語り部ガイドをやり始めてん。活動っていうがんは、穴水町に古くから伝わる文化とか祭りとか、そんなんを説明しとりん。今んとこ、10人の人がガイドしとりんけど、色んな歴史を知らんとできんげんけど、歴史ばかりみんなに語っても楽しくないし、それこそ学者になってしまいい。そこで、僕は語り部として決めてんけど、僕の基本は、どうやったらお客さんが喜んで帰ってもらうかっちゅうことねん。若い人には、若い人の着眼点を見つけることが大切ねん。例えば、最近の話題なんかに触れたりして、興味を持たせる。そこから、穴水町のことも混ぜてよく知ってもらう。じゃないと、ただ喋るとるだけじゃつまらんやろし、興味も無くなる。それが、一番怖いことや。つまらんことばかり話してもおもしろくないってことは分かるとるから、なるべく分かりやすく、冗談も交ぜて話しとるよ。

## マグロに負けない出生魚

ボラ<sup>やぐら</sup>待ち 櫓 ちゅうがんはね、7メートルから8メートル

ぐらいあって、上から底網を放って、ボラが入ってきたら、すぐ、底網を締める。ボラっちゅうがんは、神経質で敏感ねん。だから、音たてたらダメねん。上げてもうたら、もう1個の船で回って来て上げりん。多いときには、何千匹とか捕れてん。1867年、江戸末期「ボラがたくさん捕れましたよ」って言ってん。ほしたら、十村<sup>とむら</sup>(\*)さんていう、今なら役場の町長さんかな、その人が「ボラたくさん捕るのやめましよう」って言ってん。それがたくさんボラが捕れたっていう証拠ねん。ほして、穴水町のボラ待ち櫓が終わったのは、1996年。それは内浦の人でお父さんとお母さんでやっとな。でも、お父さんが雷に撃たれて死んでしまっとな。それから、お母さんが最後までやっとな。その後10年ほどあいて、2011年に新崎<sup>にんざき</sup>で岩田さんが再開してん。

ボラっちゃ、美味しいのは秋から冬の時期ねんけど、一般的には冬にはボラは出て行くげんけど、穴水湾の水温がいいげんろうね。穴水湾には冬でもおるげん。ボラっちゃ出生魚やから、名前がどんどん変わるげん。だいたい30センチメートルからボラって言うげんけど、地域によって呼び方は違うげん。関東地方は「オボコ」。東北地方では「ヤチミコ」。伊勢湾あたりやったら「ギンコ」って呼ばれるげん。50センチメートルから80センチメートルになったら「トト」って言うげん。ボラの良いとこっちゃ、コレステロールとか肺がん予防、老化現象なんかにすんごいいいげん。けど、関東方面では、全く食べんげん。それは、水が汚れとるから、ボラが臭いって言って食べんくなっとな。

ボラにも種類あって、赤目ボラと白目ボラがありん。目が赤いのと白いので、赤目ボラが小さくて、白目ボラが大きい。赤目ボラは臭いげん。やから、どっちかって言ったら白目の方が美味しいかな。ボラは泥を食べるげん。だから、油臭いげん。ねんけど、白目は案外浅瀬にしか来んから、美味しいげん。三重県と島根県でも食べられとって、関西地方は食べる方やと思うわ。それから、インドネシアとか台湾でも食べられとる。あつちの方では結構多く食べられとるんじゃないかな。

(\*)十村(とむら)：他藩の大庄屋にあたる加賀藩特有の職名

## ボラの生態

ボラっちゃ、でかい魚で知られとりんけど、水面に飛び上がる高さは体長の2から3倍ぐらいにもなりん。ボラが跳ねるのは、物音に驚いたり、水中の酸素とか無くなるとる時とか、ウロコについた寄生虫を落とすためとか、色んなこと言われとりんけど、はっきりとした理由は今んとこ分かってないげん。

エサは、プランクトンとか海藻とか海底に積もった泥ごと吸い込んで食べるげんけど、泥と一緒に食べたエサはエラで分けられて、胃に入るげん。目は脂<sup>しけん</sup>腺<sup>せん</sup>という器官があって、目を覆うコンタクトレンズみたいなもんや。メナダっていう魚と区別



能登中居鑄物館にて

する時は、この脂臉があるかないかで区別されるげん。ボラは冬になると脂臉が発達して、目は白く濁ったようになるげん。

### ボラ待ち櫓の秘密

ボラ待ち櫓が斜めになつとるがんは安定感を保つためねん。真っ直ぐ立ったら、波にやられるやろ。昔はね、櫓が40基あるとも言われてん。一部では20基とも言われてん。北湾の中に40基あって、穴水に20基くらいっていう説があって、人の言い伝えやから確実ではないげんけど、40基あったっていうことは凄いボラ捕りが盛んやってんね。今は3基しかないんやね。根木の方と中居の方と町内に2ヶ所あるわ。観光用やさけ、上には人形置いて、「こんな風にボラ捕ってたんですよ〜」って分かるようにしとるわ。前は、夜にライト当てとった時期もありん。ボラ待ち櫓は増やそうとしてもボラがおらんから、増やそうにも増やせんね。魚の研究して水産庁に就職して勉強してくれる子でもおればいげんけどね。なかなかおらんね。

石川県には、お茶どころが小松と七尾と中居にあってんけど、中居にはお茶の研修所があって、中居の家に99軒お茶

作つとる場所があつてん。それで、中居のボラと中居のお茶を組み合わせた、お茶漬けってものが考え出されてん。ボラの切り身を一口大に切って、色んな調味料を混ぜたタレに浸して焼いてから、温かいご飯の上のせて、まんで熱い緑茶をまわしかけた食べ物ねんけど、これが、すごい美味しい。他にも、ボラのタレ焼き、ボラのお茶漬け、ボラのお造りが美味しいげん。特にボラのヘソ(\*) ちゅがんは、あんまり知られてないげんけど、まんで美味しい！ボラヘソのお吸い物とか、塩焼きとかね。これは、食べてみると良さが分かん。是非、みんなに食べさせたい。

(\*) ボラのヘソ：胃の幽門。吸い込んだ泥から食料を選別するために発達した器官で、鳥の砂肝に似た珍味。

### 未来への不安

ボラ待ち櫓の保全なんて、本当は無理やと思つとる。だって、ボラずっと捕れんもん。常時捕れるもんならいいよ。でも、最低限度生活できるぐらいいは、捕れんとだめやよ。じゃないと、若い子もやらんし。守りながら生活できるもんにしんとだめねん。今はボラをどういう風に加工品にしようか考

えんとだめねん。加工するにしても何にしてもボラが捕れんと始まらんげんけどね。若い子に穴水に来てもらうには、近場に遊ぶ所を作ってあげんとだめねん。生活環境を作ってあげんと、若い子は来んね。僕は50年後もボラ待ち櫓はあってほしいと思う。だから、今のところはボラの養殖をすればいいんじゃないかなと思う。今の海は変わってきとるから養殖しかないと思うし、魚入って来んかったら採算合わんしね。ボラ待ち櫓が衰退したんも採算合わんかったからやね。1日中登っつって、ボラが捕れる日と捕れん日あったらやっとなれんてしょ。それに、匹敵する収入がないとね。ボラがおらんがんにボラ待ち櫓を守って無理な話やわい。それに、今の子はボラを食べたことが無い子が多い。食べたこともなくて、ボラの良さを知らん子たちに守っていかうって言っつって、上手くはいかん。ほしたら、若い子にもボラを食べてもらうことが大切やね。学校の給食に出すとか、自分たちでボラを捌いて食べるとか、体験型にしたら、記憶に一生残るしね。体験したことって忘れにくいんよ。いつかは、若い子達が進んで穴水の伝統を守っていつてくれたら嬉しいな。

## 今後の活動

これからは、語り部を通してもっとたくさんの人、特に、これからの穴水町を担う若い子達に穴水町の歴史、文化をより深く伝えていきたいと思う。若い子達が、町の歴史とか文化を通して自分達の故郷を愛してほしいと思うよ。

そして、語り部の人数を今よりも増やして、穴水を訪れた人がまた来たいと思ってくれるように、ガイドとして心掛けて活動していきたい。今後、少しでも多くの人に町の魅力を伝えるのに役立てばいいな。50年後の穴水町が今よりもっと活性化しているように今から頑張っていきたいと思ってます。遠く都会に行っても、何かあった時に帰って来なくなるような、故郷であってほしい。

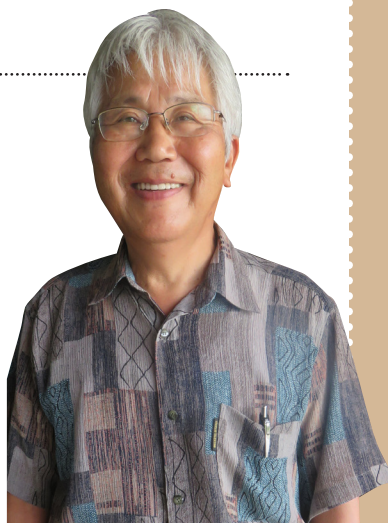
[取材日：平成28年8月2日・12月8日]

## PROFILE

**小泉 正敏** こいずみ まさとし

昭和19年6月6日・72歳  
穴水町ふるさと案内人の会 会長

「能登の里山里海」の世界農業遺産への登録や北陸新幹線金沢開業を機に、穴水町の歴史や文化についての案内をボランティアで支えようとする志を有した人達が集まった。その創立当初よりガイドとして参加する。自己研鑽を積み重ねながら訪れた観光客をガイドしている。町の活性化への寄与を目的として穴水ふるさと案内人の会が発足、その会長を務める。



## ● 取材を終えての感想 ●



聞き書きという活動を通して小泉さんと出会い、興味深いお話がたくさん聞けてとても嬉しかったです。初めて会った時に、優しそうっていうのが第一印象でした。1回目も2回目も、お話をしてくださって、ボラ待ち以外のこともたくさん教えてもらいました。お話を聞いているうちに、小泉さんのふるさと愛が伝わってきて、良い作品に仕上げたいという思いが強くなりました。

初めて聞き書きのことを聞いた時に、簡単やわ！という軽い思いで参加したけど、聞き書きの難しさが分かったら、できるかなあ？という風に不安に感じた時もありましたが、いざ始めたら、楽しくなってきた聞き書きのおもしろさにも気づけました。でも、書き起こしするってなった時の大変さは、これから一生忘れないと思います。あんなにパソコンと向き合った時間は忘れられない経験になると思いました。今回の聞き書きに参加したことで、これからの人生に必ず役立つと思うので、自分のふるさとを愛せるようになりたいと思います。

(岡本 花奈 写真：左)

聞き書きを通して、穴水町のことをもっと知ることができました。去年の人達の完成した冊子を見た時に、文字数が凄かったので自分にできるか不安でした。やってみて、書き起こしが凄く大変でした。聞き取りにくいところとか、何回も二人で聞き返したりしました。終わった時の達成感は凄かったです。ボラ待ち櫓や、中居の鋳物のこととか、詳しくは知らなかったのでインタビューとかして、凄く詳しく知ることができてよかったです。小泉さんと会う前は、写真でしか見たことがなかったのでどんな方なのかなって思っていました。けれど、会ったら凄く優しい方で、質問とかにも丁寧に答えてくれて凄くわかりやすかったです。ボラ待ち櫓の所まで連れて行ってくれるなど、とても優しくしてくれました。ボラ待ち以外のこともたくさん教えてくれて、とても勉強になりました。すごく良い経験をすることができて本当によかったです。

(藤住 望美 写真：右)